

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4 月	ひみつの言葉を引き出そう 1 時間（話・聞①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。（思・判・表 A(1)エ） ■友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話す。	1	1 扉の詩、目次、P9「国語の学びを見わたそう」を見て、学習の進め方を確かめたり、見通しをもったりする。 2 P17 を読み、5 年生の国語学習での目標や楽しみなことを書く。 3 P18-19 を読み、活動のしかたを確かめる。 4 気持ちや様子を表す言葉を、一人一つずつカードに書く。他の人に言葉が見えないように、グループの中で交換する。 5 一人がカードを持ち、グループで 2 分間話す。 ・カードを持たないメンバーは、どうすればカードを持つ人が「ひみつの言葉」を口にするかを考えながら話す。 6 カードに書かれている言葉を確認、会話を振り返る。 7 カードを持つ人を交代して、再度行う。 8 話してみて感じたことを振り返る。	【知・技】 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。（A(1)エ） 【態】 進んで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話そうとしている。
4 月	かんがえるのって おもしろい 1 時間（読①） ◎詩を音読することができる。（知・技(1)ケ） ○詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表 C(1)カ） ■音読して、想像したことを伝え合う。	1	1 詩を声に出して読んだり、友達の音読を聞いたりして、描かれていることを想像する。 ・「どこかとおく」「しらないけしき」などの言葉が表していることを考える。 2 思い浮かべた様子や自分の経験と重ねて感じたことをノートに書く。 3 ノートに書いたことを基にして、詩を読んで感じたことを伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 詩を音読している。（(1)ケ） 【思・判・表】 「読むこと」において、詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ） 【態】 進んで詩を音読し、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
4 月	名前を使って、自己しょうかい 続けてみよう 1 時間（書①） ○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表 B(1)カ） ■自分を紹介する文章を書く。	1	1 P23 の作例を基に、名前を使って自分を紹介する文章の書き方を確かめる。 2 自分を紹介する文章を書く。 ・名前の文字から始まる言葉を思い浮かべ、自分の書きたいことに合ったものを選ぶ。 ・前後の文とのつながりを考えながら、文章を書く。 3 書いた文章をグループで読み合い、感想を伝える。 4 「いいな。」と思った作品を、クラス全体に紹介する。 5 名前を使って自己紹介をしてみて気づいたことを振り返る。 6 P24「続けてみよう」を読み、日々のことを記録することの大切さに気づき、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】 文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】 「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)カ） 【態】 積極的に文章の構成や展開について理解し、これまでの学習をいかして自分を紹介する文章を書こうとしている。
4 月	人物の心情や人物どうしの関わりをとらえ、印象に残ったことを伝え合おう 銀色の裏地 5 時間（読⑤） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表 C(1)イ） ○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■印象に残ったことを伝え合う。 ☆友情、信頼や相互理解に関わる題材	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・P25 を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「理緒」の心情や、他の人物との関係を捉える。 ・P36「言葉に着目しよう」を参考に、「理緒」の心情や、他の人物との関わりが表れているところに線を引く。 ・P37「関係を図に表す」を参考に、線を引いたところを使って、登場人物の関係を図に表す。 3 登場人物の心情や人物どうしの関係が、どのように変化したのかについて想像する。 ・変化のきっかけになった出来事や言動について	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ） 【態】 粘り強く登場人物の相互関係や心情を捉え、学習の見通しをも

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	(道徳)	4 5	て考える。 ・「理緒」から見た「高橋さん」の人物像について考える。 ・題名でもある「銀色の裏地」という言葉の意味について考える。 4 P37「考えのまとめ方」を参考に、強く印象に残ったことをまとめる。 ・物語の中の印象的な表現や、自分の経験と重ねて感じたことから考える。 5 考えたことを伝え合い、新たに考えたことや感じたことをノートに書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	って印象に残ったことを伝え合おうとしている。
4月	図書館を使いこなそう 1時間 (知・技①) ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■本を探して、記録カードを書く。 ☆図書館で本を探す活動(図書館活用)	1	1 何かをさまざまな角度から調べるときに、どのように本を探しているかについて、経験を紹介し合う。 2 図書館での本の探し方について理解する。 ・「日本十進分類法」について知る。 ・著作権の観点から、図書を活用する際の留意点を確かめる。 3 図書館で、複数の棚から本を探す。 ・自分でテーマやキーワードを決めて探す。 4 P41 の記録カードの例を見て、読書記録のつけ方を知る。	【知・技】 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ) 【態】 進んで読書が自分の考えを広げることに関与することに気づき、これまでの学習をいかして本を探して、記録カードを書こうとしている。
4月	漢字の成り立ち 2時間 (知・技②) ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。(知・技(3)ウ)	1 2	1 漢字には、大きく分けて四つの成り立ちがあることを、例とともに確認する。 2 P43 の設問①に取り組む。 ・漢字辞典を使って、形声文字について確かめる。 3 P43 の設問②に取り組む。 ・漢字辞典を使って、漢字の成り立ちを確かめる。 4 学習を振り返る。	【知・技】 漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ) 【態】 進んで漢字の由来、特質などに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
4月	春の空 1時間 (書①) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表 B(1)ア) ■春らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材 (道徳)	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」や P45 の春に関わる言葉、俳句を参考にし、春らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいく。(B(1)ア) 【態】 積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って春らしいものや様子を文章に書こうとしている。
5月	話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう			
	きいて、きいて、きいてみよう 6時間 (話・聞⑥) ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の	1	1 学習の見通しをもつ。 ・生活の中で、どのような「きく」があるのかを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。(1)イ) ・情報と情報との関係づけのしか

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	表し方を理解し使うことができる。 (知・技(2)イ) ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ○話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ■インタビューをし、報告する。 ☆インタビューを行い、報告する活動(社会、総合的な学習の時間) ☆インタビューの録音・録画(ICT活用)	2 3 4 5 6	定し、学習計画を立てる。 2 インタビューの順番を決め、話題を考える。 ・話し手との関わりを思い出しながら、きいてみたい話題を幾つか挙げる。 ・その人の人柄を引き出せそうな話題を考え、質問を挙げる。 3 インタビューのためのメモを用意する。 ・絞った話題について、質問に対する答えを予想し、インタビューのためのメモを書く。 4 活動のしかたや気をつける点を確認する。 ・P48-49を読み、きき手、話し手、記録者の役割やインタビューの具体的なやり取り、報告のしかたなどについて、全体で確認する。 5 役割を交代しながらインタビューをする。 6 記録したメモを基に報告の準備をする。 7 記録者がインタビューの内容について報告を行い、報告を聞いて気づいたことを伝え合う。 8 「きくこと」について考えたことを伝え合う。 ・役割の違いによって、きき方がどのように違うのかについて話し合う。 9 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	た、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【態】 粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。
5月 と 6月	文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう 見立てる 言葉の意味が分かること 【情報】原因と結果 7時間(知・技①、読⑥) ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 (知・技(2)ア) ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。 (知・技(1)カ) ○文章を読んで理解したことに基づい	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P51を見て、文化や言葉とものの見方の関わりについて考える。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「見立てる」を読み、事例や文章構成に着目して筆者の主張を見つけて、自分の考えを伝え合う。 3 「言葉の意味が分かること」を読み、筆者の主張を見つける。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習のめあてを確認する。 ・文章を「初め」「中」「終わり」に分けて、各段落の内容を捉え、文章構成と内容を確認する。 4 文章の要旨を150字以内でまとめる。 5 文章構成や事例の挙げ方、原因と結果の関係、事例と筆者の考えの結び付きなどを確認する。 ・P63「原因と結果」、P60-61「言葉に着目しよう」を参考にする。 6 筆者の考えや、事例の示し方に対する自分の考えをまとめる。 ・共感できる点や疑問に思う点に変化があったかを考える。 7 自分の考えを伝え合う。 ・筆者の考えに触れながら、文章から読み取れる筆者の考えに対する自分の考えを話す。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、
	て、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ■考えたことを伝え合う。 ☆外国語や異文化への興味をもち、理解する態度を養う題材(外国語、道徳、総合的な学習の時間)	7	6 筆者の考えや、事例の示し方に対する自分の考えをまとめる。 ・共感できる点や疑問に思う点に変化があったかを考える。 7 自分の考えを伝え合う。 ・筆者の考えに触れながら、文章から読み取れる筆者の考えに対する自分の考えを話す。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】 粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
6月	敬語 2時間(知・技②)	1	1 敬語について知る。 ・「問いをもとう」を基に、言葉遣いについて自	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりを

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ☆礼儀や言葉遣いが、円滑な人とのつながりをつくることについて考える題材(道徳)	2	分なりの考えとその理由をもつ。 ・丁寧語・尊敬語・謙譲語について理解し、ノートにまとめる。 2 P65 の設問 1 に取り組む。 ・どのような表現に変えるとよいかを考え、理由とともにノートに書いて、話し合う。 3 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	つくる働きがあることに気づいている。(1)ア) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(1)キ) 【態】 進んで日常よく使われる敬語について理解し、学習課題に沿って使い慣れようとしている。
6 月	表現を工夫して、俳句を作ろう			
	日常を十七音で 3 時間(書③) ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。(思・判・表 B(1)オ) ○俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けることができる。(知・技(1)ウ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ■俳句を作る。	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・P66 の二つの俳句を読み、「問いをもとう」に沿って感想を話し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 俳句を作る材料を集める。 ・P67 のメモの例を参考にして、生活の中で気づいたことや、驚いたこと、心が動いたことなどを短い文で書き留める。 3 材料を基に、5・7・5 の 17 音の形にする。 4 P68 を参考に、表現の工夫のしかたを確かめる。 5 作った俳句の表現を工夫する。 6 作った俳句を友達と読み合い、言葉や表現を工夫したところや、友達の俳句への感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けている。(1)ウ) ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(B(1)オ) 【態】 粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって俳句を作ろうとしている。
6 月	漢字の広場① 1 時間(書①) ◎第 4 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表 B(1)オ) ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	1	1 P70 に提示された言葉を使いながら、図書館の人になったつもりで、本の場所や図書館の使い方などについて説明する文や文章を書く。 2 書いた文や文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文や文章を読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認する。	【知・技】 第 4 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】 進んで第 4 学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6 月	古典の世界(一) 2 時間(知・技②) ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ■古文を音読する。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)	1 2	1 古典の世界を想像して、関心をもつ。 ・P71 の絵や文章から気づいたことを出し合う。 2 二次元コードの音声参考に、四つの古典作品の冒頭を音読し、現代語訳や解説から内容の大体を知る。 3 作品を読んで感じたことや考えたことなどをノートに書き、伝え合う。 4 四つの作品を再度読んだり、子ども向けの古典作品集などを読んだりする。 ・「この本、読もう」で紹介されている本も参考にするとよい。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ) 【態】 進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って古文を音読しようとしている。
6 月	【情報】 目的に応じて引用するとき 2 時間(書②) ◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができ	1 2	1 P76 上段を見て、自分にも似た体験がないか想起して紹介し合い、目的に応じた引用の重要性について考えることを押さえる。 2 P76 下段を読んで、情報を書き留めるときに気を	【知・技】 情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】 「書くこと」において、

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	る。(思・判・表 B(1)エ) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■引用カードを書く。 ☆レポート等を作成する際に、目的に応じて適切な引用を行う活動(理科、社会、総合的な学習の時間)		つけることを確認する。 3 P77 の文章と「山下さんの引用カード」を読んで、気づいたことを話し合う。 4 「山下さんの引用カード」を参考にして、「手洗いの際に、蛇口を閉めることの大切さを説明する文章を書く場合」という設定で、引用カードを書く。 5 どのような引用カードを書いたのか、伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) 【態】進んで目的に応じた引用のしかたを理解し、学習課題に沿って引用カードを書こうとしている。
6月 7月	伝えたいことを整理して、報告しよう みんなが使いやすいデザイン 8時間(書⑧) ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■報告する文章を書く。 ☆よりよい社会や学校生活をつくろうと考える題材(道徳、総合的な学習の時間) ☆調べたことを報告する文章の書き方を工夫する活動(理科、社会、総合的な学習の時間) ☆インターネットによる情報収集(ICT活用)	1 2 3 4 5 6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・ユニバーサルデザインについて、知っていることを紹介し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 調べたいことを見つける。 ・P79 を参考にして、家や町の中にあるものから、誰もが使いやすいように工夫されているものを探す。 ・見つけたものから、特に調べたいものを選ぶ。 3 調べ方を選んで取材し、集めた情報を整理する。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考に、適切な方法を選んで調べる。 ・P76「目的に応じて引用するとき」の学習を参考にし、調べたことを記録する。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考にしながら、集めた情報を整理する方法について考える。 4 報告する文章の構成を考える。 ・P82 の作例や二次元コードから見られる作例(全文)を参考にし、文章の構成を考える。 5 報告する文章の下書きを書く。 ・小見出しを立てるなどして、まとまりが分かるように書く。 ・本などから引用する場合は、他と区別して書く。 ・まとめは、それまでに述べてきたことと対応させる。 6 下書きを読み直して、清書する。 7 書いた文章を読み合って感想を伝え合う。 ・どんなところがよかったか、そう感じた理由とともに、感想を伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】粘り強く目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。
7月	同じ読み方の漢字 2時間(知・技②) ◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1 2	1 P84 上段の問題に取り組み、同じ訓をもつ漢字でも、意味や使い方に違いがあることに気づく。 2 P84 の設問①②に取り組む。 3 P85 上段を読み、同じ音をもつ熟語でも、意味や使い方に違いがあることに気づく。 4 P85 の設問③④に取り組む。 5 学習を振り返る。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【態】進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心をもち、これまでの学習をいかしてそれらを理解しようとしている。
7月	夏の夜	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味	【知・技】

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	1 時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）		わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」やP87の夏に関わる言葉、俳句を参考にし、夏らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。	・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいく。（B(1)ア） 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って夏らしいものや様子を文章に書こうとしている。
7 月	本は友達 作家で広げるわたしたちの読書 モモ 5 時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに関与することができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■本の魅力を伝え合う。 ☆作家を意識して選んだ本を読む活動（図書館活用）	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・普段、どのように本を探しているかを想起する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 自分の本の選び方について、友達と話す。 ・さまざまな観点があってよいが、作家に着目した発言が出るようにしたい。 3 「モモ」を読んで、感想を伝え合う。 4 これから読みたい作家を決めて、その作家の本を探して読む。 5 P91の作例を参考に「しょうかいカード」を書き、本を紹介し合う。 6 自分の選んだ作家や作品の魅力を紹介し合い、気づいたことを伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに関与している。（(3)オ） 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ） 【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の魅力を伝え合おうとしている。
9 月	かぼちゃのつるが われは草なり 2 時間（読②） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■考えたことを伝え合う。	1 2	1 二つの詩を音読する。 ・繰り返しの表現に着目しながら読む。 2 「かぼちゃのつるが」を読み、繰り返しの表現により、どのような様子が想像されるかについて、話し合う。 ・「はい上がり」「葉をひろげ」が、どう繰り返され、何を表しているかを考える。 3 「われは草なり」を読み、「われは草なり」とは、どのようなことを表しているかについて考える。 ・繰り返しの表現が、各連の中で、他の表現とどう結び付いているかについて話し合う。 4 二つの詩を読んで、繰り返しの表現があることの効果について、考えをまとめる。 5 学習を振り返る。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） 【態】進んで比喩や反復などの表現の工夫に気づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
9 月	どちらを選びますか 2 時間（話・聞②） ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ◎互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ■立場に分かれて話し合う。	1 2	1 P104-105を読み、学習の進め方を確認する。 2 海を薦めるチーム（二人）と、山を薦めるチーム（二人）に分かれて、チームごとに薦める理由を考えてノートに書き出す。 3 話し合いを行う。 ・それぞれのチームが意見を言った後、質疑応答をして、互いの考えの違いをはっきりさせる。 ・各チームは、質疑応答を踏まえて考えを整理し、改めて意見を述べる。 ・先生役は、説得力があったチームを判定する。	【知・技】思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。（(1)オ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ） 【態】積極的に互いの立場を明確にして、これまでの学習をいかして

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	☆適切な資料を用意し、相手が納得する説明をする活動（特別活動）		4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	立場に分かれて話し合おうとしている。
9 月	新聞を読む 2 時間（読②） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。（思・判・表 C(1)ウ） ○文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表 C(1)ア） ■新聞記事を読む。 ☆新聞記事等による情報収集（社会、総合的な学習の時間）	1 2	1 新聞の 1 面の構成について確認する。 ・実際の新聞を用意し、構成を確認しながら、気づいたことや疑問点などをノートに書く。 ・新聞のそれぞれの面には、どのような分野の記事が書かれているかを確認する。 2 P108-109 の二つの記事を読み、どんな違いがあるか、どうして違うのかを考え、ノートに書く。 3 二つの記事を比べて考えたことについて話し合う。 4 新聞の中から自分が興味をもったニュースを一つ選び、そのニュースについて、複数の記事を読み比べ、思ったことや考えたことをノートに書く。 5 ノートに書いたことを基に、自分の選んだニュースや記事について紹介し合う。 6 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア） ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ） 【態】進んで必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って新聞記事を読もうとしている。
9 月	文章に説得力をもたせるには 2 時間（書②） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思・判・表 B(1)イ） ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■考えたことを伝え合う。	1 2	1 意見文における「主張」と「根拠」について知る。 2 P110-111 の意見文の例を読み、「主張」と「根拠」がどのように書かれているかを確かめる。 ・「予想される反論」と「反論に対する考え」があるのとないのとは、主張の伝わり方がどのように変わるかを考える。 ・「まとめ」で「主張」と同じ内容が繰り返されていることの効果を考える。 3 自分が毎日を安全に過ごすための方法について意見文を書くことと仮定して、構成や、どのまとまりにどんなことを書くかを考えて、伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（B(1)イ） 【態】積極的に筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
9 月	漢字の広場② 1 時間（書①） ◎第 4 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表 B(1)オ） ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	1	1 P112 に提示された言葉を使いながら、作家になったつもりで、登山家の半生を文章に書く。 2 書いた文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文章を友達と読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認する。	【知・技】第 4 学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】進んで第 4 学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
9 月 ～ 10 月	物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう たずねびと 6 時間（読⑥） ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表 C(1)エ） ○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■考えたことを伝え合う。 ☆戦争や平和について考えさせるとと	1 2	1 学習の見通しをもつ。 ・ P113 を見て、物語の内容を想像する。 ・ 教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 本文を読んで、「綾」の心情の変化を捉える。 ・それぞれの場面で「綾」が出会ったものや、登場人物を確かめる。 ・ P128 「心情の変化をとらえる」を参考に、行動や会話、心情や情景を表す表現に着目して、「綾」の心情の変化を捉える。	【知・技】比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。（知・技(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） 【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとし

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	もに、平和を願う心を養う題材（道徳） ☆紹介された本を選んで読む活動（図書館活用）	3 4 5 6	3 P129「言葉に着目しよう」を参考にし、物語の全体像を想像する。 ・「きれいな川」や「ただの名前」が、「綾」にとってどんなものになったかを考える。 ・原爆や戦争に対する「綾」の見方がどう変わったかを考える。 ・「綾」が訪ねた場所や出会った人が、それぞれ「綾」に何を伝える役割をしていたかについて考える。 4 自分の思いや考えにどのような変化があったかについて、ノートにまとめる。 ・P129「考えをまとめる例」を参考にする。 5 まとめたことを友達と伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・単元で身につけた力をいかして、P260「チェロの木」を読むことを確かめる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	ている。
10 月	漢字の広場③ 1 時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表 B(1)オ） ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	1	1 P131に提示された言葉を使いながら、各教科での学習や学校生活について、学級日誌に記録するように文章を書く。 2 書いた文章を読み返し、構成などを整える。 3 書いた文章を友達と読み合い、交流するとともに、示された漢字について確認する。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
10 月	方言と共通語 2 時間（知・技②） ◎共通語と方言との違いを理解することができる。（知・技(3)ウ）	1 2	1 方言と共通語について知る。 ・「問いをもとう」を基に、言葉の中には方言があることに気づく。 ・「方言分布図」を参照し、自分の住んでいる地方で、塩の味を表す言葉としてどう言うか、話し合う。 2 方言と共通語の特徴と必要性を確かめる。 3 設問に取り組む。 ・自分の住む地域の方言を知る。 ・「たずねびと」の方言の効果について話し合う。 ・方言を使った場合と共通語を使った場合のそれぞれのよさを考える。 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を読み、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】共通語と方言との違いを理解している。（(3)ウ） 【態】進んで方言と共通語の違いに関心を持ち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
10 月	秋の夕 1 時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表 B(1)ア）	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」や P135 の秋に関わる言葉、俳句を参考にし、秋らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を読み、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいく。（B(1)ア）

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	■秋らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）			【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って秋らしいものや様子を文章に書くとしている。
10 月	たがいの立場を明確にして、話し合おう			
	よりよい学校生活のために 【コラム】意見が対立したときには6時間（話・聞⑥） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■身の回りの問題について、それぞれの立場から考えを伝えて話し合う。 ☆身近な問題に気づき、仲間と共に解決を図る学習（特別活動、社会、総合的な学習の時間） ☆ICT端末の機能を使って、出てきた考えを整理する活動（ICT活用）	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・学校生活の中でこうなるといいと思うことについて、考えを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 学校生活の中から、議題を決める。 ・新たにしてみたいことや解決したい身近な課題を見つけて、ノートに書く。 ・書いた課題を基にクラスで一つの課題を選び、議題を決める。 3 自分の立場を明らかにするために、考えを書き出す。 ・P138「自分の考えを明らかにするときは」を参考にする。 ・議題についての自分の意見を付箋等に出して整理しておく。 4 話し合いのしかたを全体で確認して、進行計画を立てる。 ・P138「進め方の例」を参考にする。 ・グループごとに司会や記録などの役割や、時間配分等を決める。 5 話し合いのときに気をつけることを確認する。 ・「考えを広げる話し合い」「考えをまとめる話し合い」それぞれについて、よりよい意見の伝え方や質問のしかた、意見のまとめ方などを確かめる。 ・P142「意見が対立したときには」を読み、意見が対立したときの伝え合い方について知る。 6 計画に沿って、グループで話し合う。 ・前時までの学習をいかして話し合う。 ・各自の考えを書いた付箋を利用して、それぞれの考えを整理する。P140「ふせんを使って整理する例」を参考にする。 7 話し合った結果をクラス全体へ報告し、感想を伝え合う。 ・話し合いの中でよかったところを伝え合い、話し合いのよりよい進め方として確かめ合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。（(1)オ） ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ） 【態】粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。
11 月	浦島太郎——「御伽草子」より1時間（知・技①） ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ○親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○時間の経過による言葉の変化に気づ	1	1 P144-145 を読み、「浦島太郎」の結末について知ることを発表し合う。 2 二次元コードを活用して古典の文章の朗読を聞いたのち、繰り返し音読する。 3 「知っている話と違う」「今の自分たちにも、気持ちがかかる」などの視点で考えをもち、友達と話し合う。 4 学習を振り返る。 ・昔の言葉と今の言葉を比べたり、昔の人のものの見方や感じ方について感想をもったりしてまとめる。	【知・技】 ・親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ） ・時間の経過による言葉の変化に気づいている。（(3)ウ）

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	くことができる。(知・技(3)ウ) ■古典の文章を読み、知っている話と比べて思ったことを話す。 ☆二次元コードから朗読を視聴（ICT活用）			【態】進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、学習課題に沿って古典の文章について思ったことを話そうとしている。
11 月	和語・漢語・外来語 2 時間（知・技②） ◎語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づくことができる。(知・技(3)ウ) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)	1 2	1 言葉には、「和語」「漢語」「外来語」があることを知る。 ・「問いをもとう」を基に、違う言い方があることに気づき、使い分け方について考える。 ・P146 の①と②を読み、それぞれから受ける印象の違いについて伝え合う。 ・和語、漢語、外来語の定義を理解する。 2 P147 の設問に取り組み、漢語と和語で意味が異なる場合があることを知る。 3 和語・漢語・外来語の使い分けについて考える。 ・それぞれの特徴をまとめる。 4 身の回りにある文章から、和語・漢語・外来語を探して発表し合い、どのような文章の中に多く見られるかを確かめる。 5 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づいている。(3)ウ) 【態】進んで和語・漢語・外来語などの由来に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
11 月	資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう			
	固有種が教えてくれること 自然環境を守るために 【コラム】統計資料の読み方 10 時間（書⑤、読⑤） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 (知・技(2)ア) ◎引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)エ) ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表 C(1)ウ) ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表 C(1)ア) ■筆者の説明のしかたの工夫について、考えをまとめて話し合ったり、統計資料を根拠にして意見文を書いたりする。 ☆図表・グラフ等と文章を関連させながら、説明されていることを読み取る活動（社会、算数、理科） ☆理由や根拠を明確にしながら自分の考えを記述する活動（社会、理科、家庭科）	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P149 を見て、固有種について知っていることや、自然環境について関心のあることなどを出し合う。 ・自然環境について、自分の考えを文章に書くことを確かめる。 ・教材文を読み、P158「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「固有種が教えてくれること」を読むことで、初めて知ったことや興味をもったことを出し合う。 ・筆者の説明の工夫に着目して読んでいくことを確かめる。 3 文章の構成を整理して、内容を捉える。 ・「初め」「中」「終わり」のまとまりを確かめる。 ・筆者の考えの中心を捉える。 ・「中」のそれぞれの段落に見出しをつけて整理して、「中」を大きく二つに分ける。 ・文章の要旨を 150 字以内でまとめる。 4 筆者が図表やグラフ、写真を使った意図と効果を考える。 ・P158「資料の効果を考えるときは」を読み、意図や効果を考える時の手がかりにする。 5 筆者の考えや説明の工夫について、資料の効果にも触れながら、自分の考えをまとめる。 ・図表やグラフ等の効果についても触れる。 6 筆者の説明の工夫について、グループで伝え合う。 7 学校図書館などで、環境に関する図書を読み、内容や説明のしかたについて感想を伝え合う。 8 学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 ・P160「問いをもとう」「目標」を基に、見通しをもつ。 9 前時までの学習をいかし、環境問題について自分	【知・技】 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) 【態】粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	☆固有種や環境について目を向けて考える題材（理科） ☆統計資料がある本を読む活動（図書館活用） ☆グラフや表の作成（ＩＣＴ活用）	7 8 9 10	の考えを書くことを確かめる。 ・「問いをもとう」の二次元コードから見られる動画を参考に、日本や世界にある環境問題の中で、特に解決したいものを考える。 10 統計資料を集め、自分の考えをもつ。 ・P161の二次元コードから、環境問題に関するさまざまな統計資料を見える。 ・統計資料とそこから分かることを紹介し合う。 ・P165「統計資料の読み方」を読んで参考にする。 11 自然環境について、自分の考えをもつ。 ・P162-163の作例を読み、自分の書く文章の見通しをもつ。 ・自分の考えの根拠に適した統計資料を決める。 12 「初め」「中」「終わり」の構成で、書くことを整理する。 ・付箋紙やカードなどを使って、何を、どの順序で書くのかを決める。 13 グラフや表を用いて、考えを書く。 ・自分の考えに合った資料を用いる。 ・P162「グラフや表を用いて書くときは」、P163「グラフや表を用いて書くときの言葉」を読んで、説得力のある文章になるように工夫する。 ・書き上げたら読み返して、説得力のある文章になっているか確かめる。 14 書いた文章を友達と読み合い、説得力のあるところについて、意見や感想を交流する。 15 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
11月	カンジエ博士の暗号解読 2時間（知・技②） ◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	1 P166を読み、暗号の解読のしかたを確かめる。 ・同音の漢字が解読の鍵であることに気づく。 ・漢字辞典や国語辞典を使って、漢字を確かめる。 2 設問に取り組み、グループで確かめ合う。 3 暗号文を作り、グループで解き合う。	【知・技】 第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【態】 進んで漢字の読み方に関心を持ち、これまでの学習をいかして漸次書こうとしている。
12月	古典の世界（二） 1時間（知・技①） ◎親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ■漢文を音読する。 ☆国語に対する関心と、我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1	1 教師の範読（朗読CD、デジタル教科書、二次元コードの音声）を聞き、読み方やリズムを知る。 2 「論語」や漢詩「春暁」を声に出して読む。 ・漢文特有の言い回しやリズムを味わう。 ・日本語訳（大意）を参考にして意味を捉え、問答の場面や、漢詩の情景を想像する。 ・内容を自分に引き寄せて感想をもち、紹介し合う。 3 グループで交互に音読を聞き合いながら、漢文特有の言い回しやリズムを楽しむ。	【知・技】 ・親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ） 【態】 進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って漢文を音読しようとしている。
12月	漢字の広場④ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ）	1	1 P170に提示された言葉（県名）を使いながら、それぞれのますに入る文を書く。 2 書いた文を読み返すなどして、構成などを考える。 3 書いた文を見せ合って紹介し合うとともに、示された漢字を確認する。 ・クラスやグループで都道府県すごろくを完成させ、遊んで楽しむ中で、漢字に親しむ。	【知・技】 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】 進んで第4学年までに配当され

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	■示された言葉を使って、それぞれの県についての文を書く。			ている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
12月	伝記を読み、自分の生き方について考えよう			
	やなせたかし——アンパンマンの勇氣 5時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。（知・技(3)オ） ◎文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)イ） ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ■伝記を読み、自分の生き方について考えたことを交流する。 ☆自分の郷土に目を向けさせる題材（総合的な学習の時間） ☆伝記の選書（図書館活用）	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・P171を見て、やなせたかしについて、知っていることを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習の見通しをもつ。 ・P181「この本、読もう」も参考にしながら、興味のある伝記を選ぶ。 2 伝記に取り上げられている出来事確かめる。 ・P182「伝記の表現」から、特色を知る。 ・それぞれの出来事で「たかし」がしたことや考えたこと、人生における意味を確かめる。 3 考え方に着目して、「たかし」の人物像をまとめる。 4 「たかし」の行動や考え方について、自分の考えを書く。 5 選んで読んだ本（伝記）について、考えたことを200字程度で書く。 6 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。
12月	意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう			
	あなたは、どう考える 6時間（書⑥） ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■意見文を書く。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動（社会、総合的な学習の時間） ☆意見や理由とその根拠を説明する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆ICT端末に文章構成の表を用意し、付箋機能を使い、文章の構成を考える活動（ICT活用）	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・他の人の意見を読んで共感したり、意見をもった経験について発表する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 自分の関心のあることから題材を決め、主張を考える。 ・P187の作例を読み、よいところを見つける。 ・P185の投書の例や「題材の例」を参考にして、題材を集めて、その中から決める。 ・P185「主張をはっきりさせるには」を参考に主張の理由や根拠を書き出す。 3 自分の考えを見直したり、グループで見せ合ったりして、他の立場から自分の考えを見直す。 ・主張や理由、根拠について、説得力があると感じたところや補ったほうがよいところを友達と伝え合う。 ・友達の意見を参考にして、自分の主張に対する反論を予想する。 ・必要に応じて、実際にあった出来事を思い出したり、図書館やインターネットで情報を調べたりする。 4 文章の構成を考える。 ・P186の倉田さんの例を参考に、集めた情報から、どれをどの順番で取り上げるかを決める。 ・P186「学びをいかそう」を参考にして、説得力を意識した文章構成になるように確かめる。 5 構成を基に、意見文を書く。 ・P187「考えを表す言葉」を参考にする。 6 書いた文章を読み返して、文章を推敲する。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)カ） 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		6	7 意見文を読んで感想を伝え合い、文章のよさを見つめる。 ・P188 の感想の例や質問の例を参考にする。 ・P188 「感想や質問を伝え合うときは」を参考に、質問や感想で意見文のよさを引き出した、気づいたりできるようにする。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
12 月	冬の朝 1 時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表 B(1)ア） ■冬らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)	1	1 「枕草子」を音読して、言葉の響きやリズムを味わい、感じたことを伝え合う。 2 「枕草子」や P191 の冬に関わる言葉、俳句を参考に、冬らしいものや様子を文章に書く。 3 書いたものを交流して、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・自分が書いた「春夏秋冬らしいものや様子」を見直して、振り返ることができるとさらによい。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア） 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って冬らしいものや様子を文章に書くとしている。
1 月	好きな詩のよさを伝えよう 2 時間（書①、読①） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表 B(1)ア） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表 C(1)カ） ■詩を紹介する文章を書く。 ☆詩集を読む活動（図書館利用）	1 2	1 教科書にある詩を繰り返し音読し、好きなところや気づいたことなどについて、ノートに書く。 2 それぞれの詩の工夫を確かめる。 ・「言葉に着目しよう」を参考に考え、伝え合う。 3 教科書にある詩からお気に入りの詩を選び、どこがよいのかをまとめて書く。 4 好きな詩を紹介するカードを書く。 ・これまでに読んだ詩や詩集などからお気に入りの詩を選び、表現のよさを考える。 5 カードを基にして詩を紹介し合う。 6 学習を振り返る。 ・「この本、読もう」で読書の幅を広げる。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ） 【態】積極的に詩を読んでまとめた感想を共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。
1 月	言葉でスケッチ 2 時間（書②） ◎目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表 B(1)ウ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■情景が伝わるように書く。	1 2	1 メモの書き方をつかむ。 ・P194 「観点にそってメモに書き出そう。」を参考にする。 ・教材にある子どもの写真を基に、観点を作ってメモを作成する。 ・メモを作成して、観点に沿って整理する。 2 P195 「例」のよいところを見つけて、情景が伝わってくる表現の工夫のしかたを確かめる。 3 自分が選んだ写真を、言葉で表現する。 4 完成した文章を読み合い、よいところを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元で活用することを確かめる。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】粘り強く自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題に沿って情景が伝わるように書こうとしている。
1 月	熟語の読み方 2 時間（知・技②）	1	1 P196 上段の熟語は、それぞれの漢字を音読みと訓読みのどちらで読んでいるかを考える。	【知・技】第 5 学年までに配当されている漢字を読んでいる。（(1)エ）

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	◎第5学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)	2	2 重箱読みと湯桶読みの熟語について理解する。 3 設問①に取り組み、音読みと訓読みの組み合わせになっている熟語を探す。 ・重箱読みと湯桶読みに分ける。 4 P197を読んで、特別な読み方をする熟語があることを知る。 5 設問②に取り組み、熟語の読み方を考える。 6 特別な読み方をする熟語を見つけてクイズにして、紹介し合う。	【態】進んで熟語の読み方に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
1月	漢字の広場⑤ 1時間(書①) ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■示された言葉やつなぎ言葉を使って、道順を案内する文を書く。	1	1 P198に提示された言葉とつなぎ言葉を使って、駅からおばあちゃんの家までの道順を案内する文章を書く。 2 書いた文章を読み返すなどして、つなぎ言葉の使い方や構成などを考える。 3 書いた文章を見せ合い、違う道順や違う表現で書いた友達と紹介し合うとともに、示された漢字を確認する。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
1月	事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合う			
	想像力のスイッチを入れよう 6時間(読⑥) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■メディアとの関わりについて考えを伝え合う。 ☆メディアとの関わり方について理解し、考えをもつ題材(総合的な学習の時間、日常生活)	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P199を見て、「想像力のスイッチ」という言葉から連想することを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 筆者が伝えようとしていることを捉える。 ・文章のまとまりごとに述べられていることをまとめて、概略をつかむ。 3 筆者が挙げた事例と、それぞれの事例に対する筆者の意見をまとめる。 4 事例を挙げて説明することの効果について話し合う。 5 筆者が考える「想像力のスイッチ」について、まとめる。 ・なぜその表現にしたのかを考える。 ・表現に対する自分の意見をもつ。 6 P206「もっと読もう」を参考にして、自分の経験を想起して、メディアとの関わり方についての自分の考えを文章に書く。 7 書いたものを読み合い、互いの考え方の類似点や相違点を見つけて伝え合う。 ・取り入れたい友達の考えを明らかにする。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習の見通しをもってメディアとの関わり方について話し合おうとしている。
1月	複合語 2時間(知・技②) ◎語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	1 2	1 複合語について知る。 ・「問いをもとう」を基に、言葉と言葉が結びついて、新しい意味をもつことに気づく。 2 複合語の種類を確かめる。 ・複合語の組み合わせ方を理解して、設問①に取り組む。 3 複合語の特徴を確かめる。 ・長い複合語や略語について理解する。	【知・技】語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態】進んで複合語の構成や変化について関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			・発音や音の高低が変わる複合語があることを確かめる。 ・設問②に取り組む。 4 学習を振り返る。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	
2 月	言葉について考えよう			
	言葉を使い分けよう 3 時間（知・技①、書②） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表 B(1)ウ） ■手紙を書く。	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・P213 を読み、「問いをもとう」を基にどんなことを考えていくかを見通しをもつ。 2 相手に応じた言葉の選び方について考える。 ・「お知らせをどう書き換えればいいか」について話し合う。 ・P214 「言葉を選ぶときは」を読んで、選び方について確認する。 3 相手や場に応じた言い方について考える。 ・「お知らせ」をどう書き換えればいいかについて話し合う。 ・P215 「言い方を変えるときは」を読んで、よりよい言い方について確認する。 4 P215 の課題に取り組む。 ・相手に合わせて言葉を選び、相手や場に応じた言い方をすることの大切さを確認する。 5 言葉や表現に気をつけて手紙の文面を考える。 ・友達と評価し合う。 6 学習を振り返る。 ・これからの生活や学習にいかす視点をもつ。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って手紙を書こうとしている。
2 月	読む人を意識して構成を考え、物語を書こう			
	もう一つの物語 6 時間（書⑥） ◎話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思・判・表 B(1)イ） ■別の物語に書き換える。	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・別の展開について考えてみたい物語を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 作例を基に、「何を」「どのように」書き換えているかをつかむ。 3 書き換えたい物語を選び、変える部分を考える。 ・P218 「変える部分を考えるときは」を読み、変え方の参考にする。 ・変える部分を友達と紹介し合って、書き換える物語と、書き換える部分について決める。 4 読む人を意識して、物語の構成を考える。 ・P219 「物語の基本的な構成」「塩谷さんの構成メモ」を参考にして、構成メモを作成する。 ・塩谷さんの構成の工夫を見つけて、読む人にどう楽しんでもらおうとしているかを予想する。 ・P219 「物語の構成を考えるときは」を読んで、構成を考える参考にする。 5 表現を工夫して、物語の下書きをする。 ・読む人にどう感じてほしいかを意識して、物語の「どこに」「何を」書けばよいかを考える。 ・物語の場面を想像して、会話文や登場人物の様子、情景などを工夫して書き表す。 6 物語を清書する。 ・P220 「学びをいかそう」を参考にして、表現を工夫する。 ・推敲して、仕上げる。	【知・技】話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（B(1)イ） 【態】粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって物語を書こうとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		6	7 読み合って、感想を伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
2月 ～ 3月	事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう 「子ども未来科」で何をする 6時間（話・聞⑥） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ） ◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○話の構成や展開、話の種類と特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■提案するスピーチを行う。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動（社会、総合的な学習の時間） ☆意見や理由と根拠を説明する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆練習時のスピーチの録音・録画（ICT活用）	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・自分が学んでみたいことを考え、発表し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P225「山下さんのスピーチ」を参考に、「何を」「どのように」に伝えるスピーチなのかの見通しをもつ。 3 考えてみたいテーマを決める。 ・どんな課題があるかを想起して、自分が考えたテーマを決める。 ・課題にしようとしているテーマについて、グループで情報交換する。 4 テーマから課題を考え、情報を集める。 ・自分が決めたテーマについての課題を挙げて、「子ども未来科」で学べそうなことを考える。 ・P223「情報を集めるときは」を参考に、説得力を上げるための情報を集める。 5 スピーチの構成を考える。 ・内容や話す順序を考え、スピーチメモを作る。 ・提示する資料を作る。 ・P224「構成を考えるときは」「資料を作るときは」を読んで、参考にする。 6 スピーチメモを基にして、練習をする。 ・P225「山下さんのスピーチ」や二次元コードを参考に、効果的な言葉の選び方や話し方、資料のしし方などを工夫する。 7 スピーチをする。 ・動画に撮っておき、見返す。 8 感想を伝え合う。 ・話の構成、話し方の両面から、友達のスピーチのよかったところを伝え合う。 9 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。（(1)イ） ・話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。（A(1)イ） ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ） 【態】 粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって提案するスピーチをしようとしている。
3月	登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりょくを伝え合おう 大造じいさんとガン 6時間（読⑥） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○文章を音読したり朗読したりすることができる。（知・技(1)ケ） ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の魅力を伝える文章を書く。	1 2 3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・P227を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「残雪」に対する「大造じいさん」の心情と、その変化に着目して、物語の内容を捉える。 ・P246「言葉に着目しよう」を参考に、「大造じいさん」の心情を表す情景描写の効果について考える。 3 物語の山場について考える。 ・「大造じいさん」の心情が大きく変わるところを探す。 4 読み深める観点を選んで、物語の魅力を見つけて自分の言葉でまとめる。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・文章を音読したり朗読したりしている。（(1)ケ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	■物語の魅力が表れているところを朗読する。	5 ～ 6	・P247「選んで読み深めよう」を参考にする。 ・観点が同じ人どうしや違う人どうしで考えを伝え合い、考えを深める。 5 物語の魅力とそう考える理由をまとめる。 ・物語の魅力がよく表れている場面や文を選んで、そう思う理由を書き表す。 6 選んだ場面や文を朗読で表現する。 ・物語の魅力について書いた文章や朗読について、グループで紹介し合い、考えを比べる。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【態】積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。
3月	漢字の広場⑥ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、出来事を報道する文を書く。	1	1 P249に提示された言葉を使いながら、新聞記者になったつもりで、出来事を報道する文章を書く。 2 書いた文章を読み返すなどして、構成などを考える。 3 書いた文章を見せ合い、交流するとともに、示された漢字を確認する。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
3月	五年生をふり返って 1時間（書①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。	1	1 1年間の国語学習を振り返る。 ・P252『『たいせつ』のまとめ』を読んで、領域ごとに自分が大切だと思ったことを書き加える。 ・学習で使ったノートやワークシートなどを見返して、それぞれの単元、時間で学んだことを想起する。 2 「自分自身について言葉の力」と「その力のいかし方」について、自分の考えをまとめて書く。 3 書いた考えを友達と紹介し合う。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいく。（B(1)ア） 【態】進んで考えたことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。